

保育施設受け皿体制について

最新の人口から見た保育施設申込予測

R4 年度

	2号		3号		計
	3歳児以上	0歳児	1-2歳児		
受け皿	699	140	433		1,272
人口	1,003	295	643		1,941
申込数	729	227	480		1,436
申込割合	72.68%	76.95%	74.65%		73.98%
過不足	-30	-87	-47		-164

R5 年度

	2号		3号		計
	3歳児以上	0歳児	1-2歳児		
受け皿	704	158	445		1,307
人口	1,006	297	649		1,952
申込数	731	229	484		1,444
申込割合	72.68%	76.95%	74.65%		73.98%
過不足	-27	-71	-39		-137

R6 年度

	2号		3号		計
	3歳児以上	0歳児	1-2歳児		
受け皿	728	164	460		1,352
人口	1,036	294	668		1,999
申込数	753	226	499		1,479
申込割合	72.68%	76.95%	74.65%		73.98%
過不足	-25	-62	-39		-127

R4年度の人口及び申込数については、R4年12/15時点の実数を計上している。

R5年度の人口については、直近の人口から予測し、申込数については、R4年度の割合を予測人口に乗じて算出している。

R6年度の人口については、益城インターチェンジ沿いの区画整理事業の人口増を見込み、1歳児から5歳児までは、R5年度の人口に1.03の係数を乗じ、算出している。0歳児については、出生数の低下もあることから、R5年度の人口に0.99の係数を乗じ、算出している。

R5 年度に 100 人規模の保育所を整備し、R6 年度に認可外保育施設を認可保育施設に移行しても、100 人以上の不足が発生する見込みとなっている。また、R7 年度以降も未就学児童数は増加することが予測される。

各保育施設の弾力運営により、対応したいところであるが、余裕を持った受け入れを実現することが保育環境の向上につながり、かつ、今後も未就学児童数が増加することが予測されることから、200 人程度の受け皿を拡大する必要がある。

受入体制の拡充を行うことで、待機児童の解消に努め、更には医療的ケア児や障がいを持った児童の受入を実現したい。